

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970800874		
法人名	特定非営利活動法人ふるさと		
事業所名	グループホームふるさと竜王		
所在地	甲斐市万才449番地5		
自己評価作成日	平成22年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成22年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の中にあり、日々の散歩や外出の際には近所の方々との交流の機会も多く、暖かく見守って頂いている。利用者さん同士での助け合いの場もよく見られ、穏やかに生活されている。愛犬と生活している利用者もいて、他の利用者にとっても、癒しの存在になっている。夏には茄子やきゅうり、トマトなど野菜作りが上手な方を中心に、水やりから収穫、調理までみんなで協力し楽しみながら過ごしたり、季節に応じて外食やドライブも楽しみの一つになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一般住宅の中にグループホームがあり、住宅地の中に溶け込んでいる。玄関を入るとキッチンとリビングがワンフロアになっていて、職員は常に利用者に目が届き、一人ひとりに合わせた支援が出来る。「家族として接していきたい」と生活状況を把握しながら支援につなげている。1階と2階が居室になっており、2階にはソファが置かれお茶を飲んでくつろげるスペースがあるが、日中は全員1階のリビングで過ごし、ラジオ体操で体を動かしている。職員のアイデアを活かした、倉庫の入口を開けてしまう利用者の対策の提案を取り入れたり、職員同士、何でも話しやすい環境が利用者の支援につながっている。また、椅子の背もたれに防災頭巾がつけてあるなど工夫が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームふるさと竜王 [セル内の改行は、(Altキー) + (E

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念と地域密着型サービスの意義をふまえた理念があり、全職員が理解し、日々、利用者とのかかわりの中で常に心がけている。	地域密着を踏まえた理念があり、朝礼で唱和している。管理者が朝、職員に申し送りをしている。利用者の、その日の様子に合わせたケアを毎日実践し、家庭的な生活が送れる様、見守をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っている。地域行事やお祭り等に参加している。	自治会に加入していて、民生委員の方から地域の行事の連絡があり、夏祭りなどに参加している。また、交代で回ってくるゴミ当番の時には、利用者と職員で集積所の清掃をするなど地域と関わりを持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な取り組みは今までにない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や家族にそれぞれの立場から意見を頂いている。改善が必要な内容や要望事項など職員会議等で話し合い、取り組んでいる。	民生委員・地域包括・市の職員・利用者の家族・利用者(1~2名)が参加し、2か月に1回、昼に開催している。事業所の報告、インフルエンザの対策など時期にあった話し合いをしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。その他、日々の業務の中で悩みや不明な点が生じた場合には都度、連絡をとり助言をいただいている。	地域包括の職員から利用者の紹介があったりと、密に連絡をとり合っている。市の課長とは何でも話しやすい関係がつくられていて、系列のグループホームとの合併の話など、いつでも相談にのってくれる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという信念を、全職員が理解し、実施している。	日中、夜間も施錠はしていない。オムツも身体拘束との意識を持って、日中は利用者全員のトイレ誘導がなされている。言葉の暴力やスピーチロックをせずに、常に見守りをしている。何処までが身体拘束が解らない時は、職員同士話し合いながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について職員間で研修を行い、意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とするケースは今までにないが、知識と情報を共有できるよう、職員間で勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改定時には書面と口頭で説明している。疑問や不明な点があった場合には、いつでも連絡していただきたいことを家族に伝え、その際は速やかに対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内での苦情の窓口を設置している。また、公的な相談窓口の連絡先を契約時に口頭と書面で説明している。文書を掲示している。	玄関の入口に苦情箱が設置してある。外部の人にも伝えられる機会は作られている。家族が面会に来た折や、夏祭り、クリスマスなどの行事に参加した折に、気軽に話ができる雰囲気作りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月行い、気づきや提案を出し合い意見交換を行っている。	毎月、ミーティングが開かれて、現場の意見が出されている。倉庫に入る利用者があるので、職員の提案で入口の扉に「消毒中です」と札を吊るして入らないようにしている。「クリスマスツリーをいつだすのか、お正月のお餅はいつ買った方がいいのか」など、何でも言いやすい会議になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績、勤務状況を把握して、給与水準等、向上心を持って働くことができるよう、環境や条件の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて自主的に施設内外の研修会に積極的に参加するよう促している。全て勤務時間外での研修になっている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修やグループホーム職員が集まる会議に参加し、意見交換を行ったり交流を図っている。業務等の悩みや問題解決方法など、いろいろな角度からみた意見を出し合うことで良い刺激になっている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と直接会い、話を聞いている。入居してしばらくは、不安も多いので本人の思いや希望をゆったりとした時間の中で聞く工夫を心がけ、新しい環境への不安を少しでも取り除けるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状況や家族の思い、要望を聞き、出来る限り思いに添えるよう、努力している。入居当初は特に日々の様子を家族にお伝えしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネージャーなどが相談内容を確認し、支援全体を検討し対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者が何に喜びや不安を感じているのか、日常の会話や表情を見て分かり合えるように努力している。利用者に教しえられたときには感謝の言葉を伝えている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が同じ気持ちで利用者を支えられるよう、情報を交換している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の面会時には一緒に外出に出かけている。入居前からのお気に入りの店へ洋服を買いに行く利用者もいる。また、来訪者が面会しやすい雰囲気作りにつとめている。	友達が家で採れた果物や、クリスマスのプレゼントを持って話しに来てくれる。以前からのお気に入りの店に洋服を買いに行ったり、行きつけの美容院に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活のかかわりの中で、利用者同士の関係を把握し、孤立しがちな利用者には職員が寄り添い、他の利用者との関わりをきっかけになるよう支援している。利用者同士で助け合う場面もよくある。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者、家族の方と連絡をとったりするなど交流がある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを、ゆったりした時間を作り把握に努めている。困難な方に対しては、職員が一時的に思いを決め付けることなく、家族からの情報も得ている。	希望に添った努力を出来るだけしている。把握の困難な利用者には、家族から現在の状況と以前の状況を聞いて、把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や知人から得られる情報を聞いている。過去のサービス利用がある方は事業所等に情報を頂いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や、心身状態等、個別記録に時間をおって記録し、生活リズムを把握している。定期的に職員間でカンファレンスを行い「できること探し」に取り組んでいる。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から意見を聞き、その内容をもとにケアカンファレンスを行い一人ひとりの気持ちを重視した介護計画を作成している。	面会に来た時に、家族から聞いた意見をケアカンファレンスに組み入れ、介護計画を作成している。利用者・家族の要望・変化に応じた見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には食事摂取量、バイタルチェックの記入はもとより、本人の言葉を記録している。利用者の一日の様子や心身状況を全職員が把握・共有できるようにし、介護計画の見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の病院受診や面会時の家族の送迎など、本人や家族の状況や要望に応じて対応している。個々の希望による日常生活の中での外出や買い物など出来る限り支援している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の散歩もかねて、地域のお店を利用している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じた「かかりつけ医」を決めている。受診は基本的に家族同行だが、不可能な時には職員が対応している。受診結果については情報を共有している。	利用者・家族が希望するかかりつけ医となっている。週に1回、認知症の専門医が往診に来る。受診の時には職員も家族に同行し、受診結果の情報の共有を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と情報交換しながら、ケアを行い、利用者の健康管理・状態変化に応じた支援を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には職員が面会に行き、環境の変化による精神的不安の解消に努めている。病院関係者との情報交換を行い、早期退院ができるよう、家族を含め都度、検討している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や折に触れ、重度化および終末期について家族に希望を聞き、事業所として出来ることや方針をお話している。職員間で勉強会を行っているが、医療行為が必要な場合、現状では入院することがほとんどである。	ケアマネジャー・家族・責任者で今後の話を行い、医療行為が必要な時は入院等の対応をしている。退院となった時は、再入居の受け入れは可能である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や吸引機での吸引など訓練している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を使い、避難訓練を実施している。災害に備えて非常持ち出し袋や防災頭巾を準備している。近隣の工場や近所の方に災害発生時の協力を得られるよう話をしている。	避難訓練を昼間に夜間を想定して行っている。防災頭巾を用意したり、隣の工場や近所の方に応援をお願いしている。夜勤は1人だが家が近い職員もいて対応ができる。水や食料の備蓄の用意もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を職員全員が心がけ実践している。入浴や排泄、着衣交換については特に周りに気を配り、工夫している。	入居時に家族の希望を聞き、苗字か名前で呼んでいる。トイレの誘導もその人にあった言葉かけをしている。人生の先輩として、敬意を持って接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服選びなど出来る限り本人が決めている。意思表示が困難な方には、食事のときの表情を見て好みの把握をし、職員が「待つケア」を大切にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物など可能な限り、本人がこうしたいと言ったその時に対応するよう努力している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の洋服は本人に選んでいただいている。外出や行事の際にはお化粧をしたり、おしゃれも希望に応じてしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを一緒に考えている。調理や片付けなど個々の力に応じて参加していただいている。	利用者におやつや時間の時などに、食べたい物を聞いて、その日のメニューにすることもある。食材がいつも揃っているのが可能である。片付けはできる利用者が手伝っている。たまには、希望の出前をとって雰囲気を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった食事量・食事形態を提供している。食事量・水分量は職員が把握しており、その日の状態に応じ、量や内容など臨機応変に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを言葉かけで対応している。義歯の洗浄・管理をしている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、本人の排泄パターンを把握して全職員が共有している。一人ひとりにあった誘導時間を検討し、無理なく快適に排泄できるよう支援している。	初めからトイレでの排泄は出来ないと決めてしまわずに、車椅子の利用者も日中は、オムツは使用しないで下着を使用している。トイレ誘導は排泄チェック表を活用して習慣やパターンに応じた排泄支援がされている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、軽体操や歩行訓練を実施している。便秘傾向の場合は繊維食材・ヨーグルトの提供や腹部マッサージを行っている。必要に応じて主治医へ相談し対応している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自由に入浴できる時間を決められ、長さもバイタルに問題がなければ、特に制限はしていない。	毎日、入浴は可能である。いつでも好きな時間に入浴できる。入浴を拒む利用者の対応については、入浴剤などの希望を聞き入浴を促している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や希望に合わせて昼寝を促したり、好きな時間・場所でくつろいでいただいている。夜眠れない方に対しては、日中の活動でリズムを作れるようにしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬の内容がわかるようにファイルし、薬の目的・副作用等把握している。身体状況の変化により、薬の内容に変更があった場合は都度、徹底している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りが好きな方や人の面倒を見ることが好きな方など、日常生活の中で生きがいにつながるものを見つけ支援につなげている。ペットを飼い癒しの存在にもなっている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など個々のペースや希望に合わせて外出している。	職員と一緒に、お墓参りに行ったり、買い物に行ったりしている。飼っている犬と一緒に毎日散歩に出かけている利用者もあり、他の利用者も一緒に出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には財布を持ってもらっている。自販機でのジュースの購入や買い物に出かけたときには自分で支払ってもらうよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自室に子機を持っていき、使用している。玄関先には一人ひとりの名前が入った郵便受けがある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールと台所が近いので、食事の準備の匂いが広がり刺激になっている。ホールには季節に応じた飾りつけや、思い出の写真を貼り、会話や笑顔のきっかけになるよう工夫している。	クリスマスの飾り付けや、壁には行事で出かけた写真、誕生日の写真、絵手紙が飾られている。ホールと台所が近いので調理している音や匂いが感じられる。2階の利用者も日中は全員が1階で過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや2階のホールにソファーや小さなテーブルがあり、思い思いに自由に過ごすことの出来る空間がある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の意向や本人の好みにより異なるが、家で使用していた布団や家具等、使い慣れたものを持ってきていただいている。	馴染みの物を持ち込み利用者が落ち着いて過ごせるように工夫がされている。寝具については、布団・ベットは希望で使い慣れたものを使用している。愛犬と一緒に生活している利用者もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のレベルに合わせて手すりなど設置している。日々、生活の中での気づきや提案を職員間で出し合い、安全に過ごしていただくための工夫を心がけている。			